



大学入学共通テストまで あと47日

入試本番に向けて

特編授業をどう生かすか。ただ漫然と問題にあたり、答え合わせをして終わりでは有効なやり方とは言えません。とにかく1回1回の問題を完全に満点が取れるまでしつこくやり直すことです。その一つ一つの問題に共通テストの要素が必ず含まれているはず。同じ理由でこれまでの模試の問題も丁寧にとことん見直しましょう。今まで使ってきた問題集で十分です。大事なことは最後までやり通す、間違ったところは繰り返す、です。地歴公民・理科は特に最後の追い込みが効く科目です。浪人生にはできない飛躍的な伸びをみせるのはこれからです。

それから、併願校の検討も忘れずに。私大の人で、模試結果が E 判定、D 判定のところばかりを狙っても合格の可能性が高くなるわけではありません。入試においては「下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる」は通用しません。また、地方受験・共通テスト利用入試を有効に使うこと。受験の精神的負担は想像以上につらいものです。平常心を保ちやすい環境で受験できる制度を大いに利用することです。国公立大は、まずは共通テストに第一のピークをもってくること。「共通テストを制する者は受験を制す」です。

- ・共通テストで成功(A, B判定)すれば⇒⇒⇒2次試験は平均点でよい
- ・共通テストで伸びなければ(C, D判定)⇒⇒⇒逆転(合格)は非常に困難

したがって、これまでのマーク模試の成績が

- ・8割以上 ⇒⇒⇒ 共通テストは学校の演習で、2次は家庭学習で
- ・7割～8割⇒⇒⇒ 家庭学習の半分は共通テスト対策
- ・7割以下 ⇒⇒⇒ 共通テスト対策に専念

受験スケジュールを確定させる時期です

今後の大まかな流れ

志望校絞り込み(受験プラン作成)→三者面談で確認(12月)→私大, 短大, 専門出願(12～2月)
→共通テスト受験(1/13・14)→国公立大2次試験出願(1/22～2/2)→私大, 短大, 専門受験(1～2月)
→国公立大受験(前期2/25～, 中期3/8～, 後期3/12～)

併願計画

受験では、『体調』も考えなければなりません。本番の試験は緊張するものです。まだ身体が受験の体調になっていない中での、第一志望校の受験では思わぬ失敗でつまづいてしまう可能性があります。

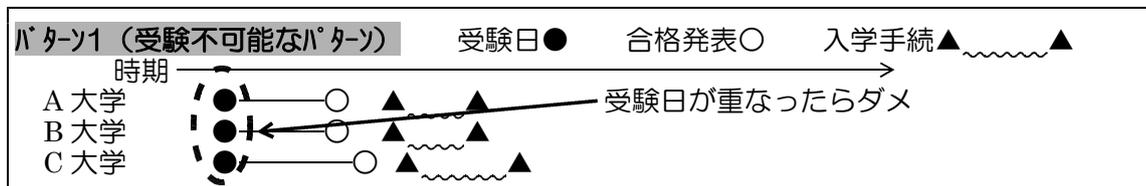
試験日も合格確実校→実力相応校→第一志望校というように段階的にし、できるだけ第一志望の試験日に体調のピークがくるような併願計画を考えましょう。

私大の場合、3教科型でも午後の早い時間に試験は終了しますが、それを2日間続けるのは大きな負担です。少なくとも1日、試験日と試験日の間が空いていれば、心身ともにリフレッシュして次の試験に臨めます。また、基本型にしたがえば、試験日が遅くなるほど「本命」に近づきますから、試験日の連続は試験の出来にも悪影響を及ぼしかねません。どうしても行きたい大学・学部の試験日が近接して

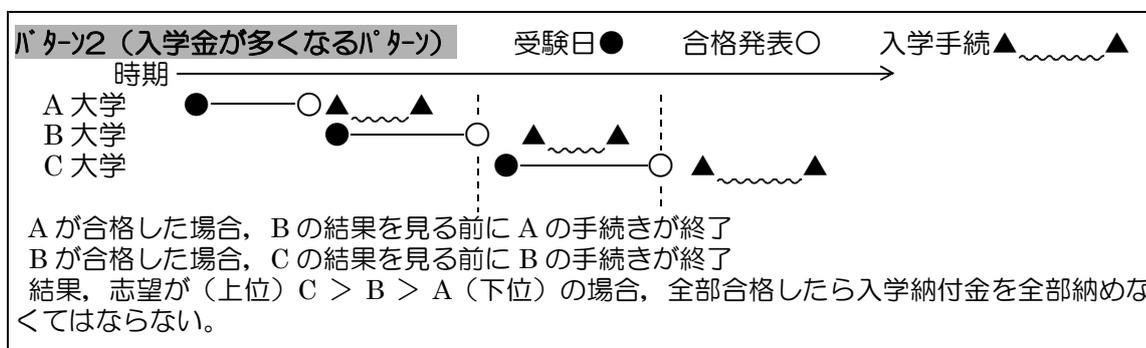
いる場合は仕方ありませんが、それ以外は**試験日は連続しない**ほうがいいでしょう。
また、移動・宿泊の手配も必要です。お家の方とよく相談した上で早めに準備をすすめてください。

無駄になるお金を最小にして併願計画を立てる!

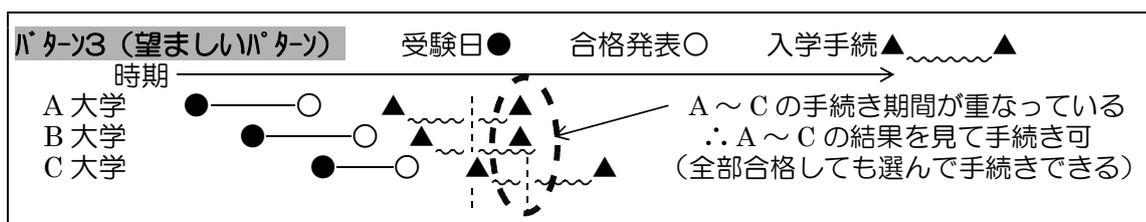
受験したところが1校だけの場合はこのような心配をしなくても良いのですが、複数の大学に合格することも考えて併願計画を立てなければなりません。たとえば、次の様に A ~ C まで3校を受験する場合を考えてみましょう。



パターン1は受験日が重なっています。受験する人間は1人ですから、A ~ C 全部受験することは不可能です。どれか1つに絞る必要があります。



パターン2は A ~ C 全部受験できますが、入学納付金が多くなりそうなおパターンです。A 大学が合格した場合、B 大学の発表前に A 大学の入学手続きが終わってしまうので、B 大学がより志望の上位だった場合、A と B の両方に納付金を納めなくてはなりません。A・B と C の関係も同様です。



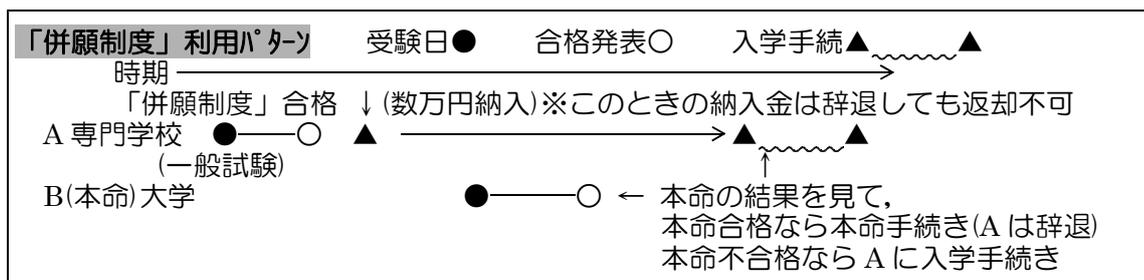
パターン3が望ましい形です。A ~ C の手続き期間に重なっているところがあります。この場合、A ~ C の全部の結果を見てから手続きをすることができますから、全部合格しても納付金は1校だけになります。ただし、この場合に注意すべき点は、手続き期間が重なる場合、受験日も近いことが多くなります。多くの併願校を受験する場合は、「連日受験」ということも考えられますが、受験地域が遠い場合は移動が厳しい状況も考えられますし、連日の受験という緊張を強いられる状況は体調管理も心配があります。移動計画や自分の体力もよく念頭に入れて計画を立ててください。

- ・併願校は受験日が重ならず、入学手続き期間が重なるほうが良い。
- ・受験日が連続すると体力的に受験が厳しいことも。移動距離と自分の体力と相談せよ。

専門学校は「併願制度」があるところも

大学進学が厳しいことが予想できる場合（例えば、例年倍率が高くなる看護系など）、大学だけでなく専門学校を併願校に考えている人もあるかと思います。専門学校などでは「併願制度」（学校により名称が異なることも）をもうけているところがあります。

大学の場合は合格発表後1～2週間以内に、入学金＋授業料半期分程度のお金を納入しなくてはなりません。専門学校の場合も基本的にそれと同じなのですが、専門学校の「併願制度」の場合、合格後に一定の併願手続金（数万円程度）を納入しておくことで、入学金や授業料の納付期限を延期する制度があります。つまり、「滑り止め」として最小限の費用で専門学校を確保しておいて、本命の大学の結果を見てから手続きに移ることが可能になるということです。以下にその簡単な図を表します。



どうしても浪人を避けたい場合はこのようになります。志望者が増えている看護系大学の受験においては、この制度を利用することも多くなっているようですが、私立専門学校は学費が私立大並みのところもあり、国公立大の看護系または公立の看護学校と比較するとより多くの学費がかかります。専門学校の併願制度と公立の学校等をうまく組み合わせて併願を考えてください。

手続き時の納入金を抑える方法として、専門学校には「併願制度」があるところもある。公立の学校などを併せた併願計画を！（特に看護系）

私立大学の「共通テスト利用入試」について

ほとんどの私立大学で、共通テストを利用した入試が採用されています。これは、共通テストの結果で私大の合格が決定される制度です。基本的には共通テストの結果のみで合否が決定されますが、難関大については共通テストの結果と個別試験結果を併せて判定する「ドッキング型」を採用している学部・学科もあります。

私大の場合、注意すべき点がいくつかあります。まず、出願を共通テスト前に行わなければならない大学と、共通テスト後に試験の結果を見て出願できる大学があることです。中堅レベル以上のところは共通テスト前に、それ以下のところは共通テスト後にという傾向があります。「共通テスト利用」とはいつでも、共通テスト前の出願になりますから、忘れないことが肝心です。また、共通テスト利用入試は、各私大のおこなう個別試験の定員よりも少ないことが多く、一般入試よりも難易度が高くなってしまい、難関大学などでは高得点を上げないと合格できない場合が多いので注意が必要です。

ただし、この私立大学の「共通テスト利用入試」は、ドッキング型の受験でない限り出願だけで合否が出ます。受験料も割安です。大学の個別試験を受けに行くのと異なり、交通費や宿の手配は不要です。国公立主体で、どうしても私立の滑り止めを受けに行く時間がないという場合や、私立主体であっても志望大学の受験校数を稼ぎたい場合などに利用して良いと思います。

- ・私大の「共通テスト利用入試」は基本的に共通テストの結果だけで勝負。出願だけで済むので、受験に行く時間が省ける。
- ・出願は共通テスト前のことも多いので、出願を忘れないようにすること。

さて何校受験するか？

さて併願校の数をどうしたら良いのでしょうか？ これは、いろいろな考え方がありますので一概に言えません。数学的な根拠に基づいて話をすると、以下ようになります。これらを参考にしてほしいと思います。

私大の併願は、合格の可能性をUPさせる方法で！ 「下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる」は受験では通用しない！

併願の基本型

	分類	数	合格の可能性	標準型	スリム型	あなたの型は？
α	チャレンジ校	1~2	20%~40%	1校	1校	校
β	実力相応校	2~4	50%~70%	3校	2校	校
γ	合格確保校	1~2	70%~90%	2校	1校	校

『1 : 3 : 2』で、合格可能性100% ! ?

上の「標準型」で、 α チャレンジ校 : β 実力相応校 : γ 合格確保校 の数を『1 : 3 : 2』としたのは、合格の可能性をできる限り100%に近づけるためです。

確率の問題として説明してみます。

【問題】合格可能性が、 $\alpha : 25%$ 、 $\beta : 50%$ 、 $\gamma : 75%$ であるとする。

α 、 β 、 γ を「1校 : 3校 : 2校」で受験した場合に少なくとも1校に合格する確率を求めよ。

【解答】不合格の可能性は $\alpha : 75%$ 、 $\beta : 50%$ 、 $\gamma : 25%$ なので、
 α 、 β 、 γ が不合格となる確率は、それぞれ $\frac{3}{4}$ 、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{4}$ であり、すべての大学に不合格となる確率は、
 $\frac{3}{4} \times (\frac{1}{2})^3 \times (\frac{1}{4})^2 = \frac{3}{2^9} = \frac{3}{512}$
 よって、求める確率は $1 - \frac{3}{512} = \frac{509}{512} \doteq \underline{0.9941} \dots$ (答)

99.4%となりました…。いかがですか？ ただ、これらはあくまで計算上の話です。実際は、いろいろな要素が合否に関わってきますが、この考え方に立って、自分の希望進路に適した併願パターンを考えてみてください。